

9月9日

ラトビア青年との交流 市内散策「リガの異なる面」 (Interactive city game "The different faces of Riga" with Latvian participants)

訪問先都市	リガ
コメント	ラトビア青年との昼食交流後、団員を3チームに分け、市内の主要地を巡りながらポイントを競うゲームを行った。各チームに一人ラトビア青年が付いて街を案内してくれた。市内主要地ではその場所に因んだクイズや、チームを団結させるゲームが行われた。旧市街地のたまかな概要と雰囲気を知ることができ、また、自分の足で各地を回ることでリガを身近に感じるきっかけとなった。

9月10日

ライモンツ・ベーヨニス ラトビア大統領表敬訪問 (Courtesy call on Mr. Raimonds Vējonis, the President of Latvia)

訪問先都市	リガ
面会者	Mr. President Raimonds Vejonis
コメント	田口団長からライモンツ・ベーヨニス大統領への表敬挨拶後、大統領自ら団員の質問に答えてくださった。大統領に各自質問ができるという、とても希少な機会を得られたことに、団員たちは緊張をしつつも興奮した面持ちだった。団員からはロシアに対するラトビア大統領としての見解などの質問をさせていただいた。

藤井真理子 在ラトビア日本国特命全権大使表敬訪問 (Courtesy call on Ms. Mariko Fujii, Ambassador Extraordinary of Japan in Latvia)

訪問先都市	リガ
面会者	藤井真理子 在ラトビア日本国大使館 特命全権大使
コメント	藤井特命全権大使よりラトビア概要を伺い、質疑応答では団員からの多くの質問に答えていただいた。「私たちがラトビアについて学ぶ際、日本における当たり前を一度取り払って考えること」というお話をいただき、ラトビア滞在中、様々なことを学ぶ上で非常に重要なアドバイスとなった。

9月11日

外務省表敬訪問 (Courtesy call to the Ministry of Foreign Affairs)

訪問先都市	リガ
コメント	諸外国との国交を担い、ラトビアの国際的地位を支えている機関。EUでのラトビアの役割を中心として、EU加盟国としての課題や日本から見た疑問などが話題にのぼった。EUでのラトビアの立場、ラトビアの置かれている状況や今後の方針を知ることができた。団員からはEU加盟による人口減少問題、移動の自由に対する防衛、安全面の質問をさせていただいた。

教育科学省表敬訪問 (Courtesy call to the Ministry of Education and Science)

訪問先都市	リガ
面会者	The Head of National Centre for Education
コメント	ラトビアの教育システムを主として、ラトビアの教育の質の向上への取組みについて学んだ。団員も教育のあり方に興味を持つ者が多く、外国語教育や日本とラトビアの教育制度を比較した上でのメリットなどについて質問させていただいた。

リガ工科大学デザインファクトリー (Riga Technical University – Design Factory)

訪問先都市	リガ
コメント	リガ工科大学はラトビアでも随一の理系大学で、デザインのアイデア、プロセスやツールについて説明を受けた。その後「理想の財布」のプロトタイプを作成するワークショップを行った。ラトビア人も含む各3~4人のチームを四つ作り、それぞれのチームが簡単なマーケティング、デザイン、プロトタイプ作成を経て、完成したプロトタイプを全員の前で披露した。

9月12日

ヴァイヴァリ小学校 (Vaivari Primary School)

訪問先都市	リガ
面会者	Head of Teacher
コメント	ラトビアにおいて最先端のインクルーシブ教育を実施している小学校。各教室を視察しながら教育のあり方について学んだ。また、15名程の児童に対して、ラジオ体操や縁日などの日本文化の紹介を行い、交流する機会を得た。

ユールマラ海岸 (Jurmala Beach)

訪問先都市	ユールマラ
コメント	ヴァイヴァリ小学校を訪問後、最寄り駅まで砂浜を歩いて移動した。ユールマラはバルト海に面したリゾート地である。約26kmに及ぶ白い砂浜と広大な松の森は、夏に多くの観光客でにぎわう。多くの団員にとってバルト海を目にするのは初めてであり、写真を撮ったり走ったりなどして各々の時間を過ごした。

ラトビア大学人文科学部 (University of Latvia, Faculty of Humanities)

訪問先都市	リガ
コメント	1919年に設立されたラトビアで最も歴史ある大学の一つ。アジア学科では1年を通して日本語スピーチコンテスト、生け花、人形劇、着物ショーなど日本に関するイベントが多数催されている。今回は、「趣味」「勉学と仕事」「友人と家族」「若者が抱える問題」の四つのテーマに分かれてディスカッションした。ラトビア大学の学生が日本のポップカルチャーだけでなく、伝統文化や日本語そのものにも興味を持っていることを嬉しく思った。その後の自由時間においても共にリガの街を散策するなどして交流した。

9月13日

占領博物館 (Occupation Museum)

訪問先都市	リガ
面会者	
コメント	占領の歴史を忘れないため作られた博物館。今上天皇も2007年に訪問された。ドイツ、ロシアの占領の歴史を、写真と遺物品、英語のガイドをもとに振り返った。日本が経験したことのない生々しい占領の歴史を知り、ラトビアが立たされた苦境や当時の凄惨な状況に想いを馳せた。

KGB ビル (KGB Building)

訪問先都市	リガ
コメント	1912年に建てられた旧ソ連国家保安委員会ラトビア本部。内部は当時の外装や雰囲気そのまま残しており、KGBの歴史もパネルで展示されていた。団員はガイドによる刑務所区画の案内に参加した。ガイドの臨場感ある場所の表現と客観的な歴史の説明のギャップがとても印象的だった。ラトビアで起きた悲惨な歴史を肌で感じた。

製パン会社「ラーチ」(Bread making company "Laci")

訪問先都市	リガ
コメント	ラトビアで有名なパン製造会社。200年の歴史を持ち、ライ麦パンを主として複数のパンを1日5t生産し、ラトビアの食卓を支えている。パン工場の工程を視察し、パンになる前のものを試食した。また、ラトビアの伝統パン「ライ麦パン」の製造過程も学んだ。

9月14日

オーガニック・ファーム「バロアニ」(Organic Farm "Baroni")

訪問先都市	リエパーヤ
面会者	
コメント	山羊を放牧している広大な農場を訪問した。山羊の飼育方法、山羊のミルクの有用性、放牧の必要性について説明を聞いた。また、山羊のしぼりたてのミルクを試飲し、そのミルクから作られたチーズを4種類を試食した。団員はそのチーズの美味しさに感銘を受け、説明後、何人も購入した。後継者がいない中、ほとんど一人で何十匹という山羊を放牧している牧場主の山羊への愛にも感銘を受けた。

ラトビア投資開発公社 (Investment and Development Agency of Latvia)

訪問先都市	リエパーヤ
面会者	Project Manager
コメント	ビジネスを始めたいという思いを持った人々をサポートする国の機関を訪問した。ここでは、金銭的な支援の他に、実際に起業されている方々からのアドバイスも受けることができる。この取組みの仕組みについて話を伺った。その後の質疑応答では、多くの質問に対して丁寧に答えていただいた。全体を通して、ラトビアがいかに国を挙げて起業支援に力を入れているかを感じた。

9月16日

スイツ・シエヴァスとの懇談、アルスunga・ミュージアム訪問、ワークショップ (Meet with Suitu sievas, visit to Alsunga Museum and workshop)

訪問先都市	アルスunga
コメント	14世紀から残る歴史ある建物をガイドの案内のもと視察し、その建物で起きた悲しい歴史について学んだ。その後、博物館にて5名の民族衣装をまとった女性の方々から話を伺い、ラトビア民謡を教えていただき共に歌った。団員の数名が民族衣装を試着するという貴重な体験もできた。ワークショップでは、現地アルスungaにおける伝統料理「ペリメニ」を作った。肌寒い秋風の吹く外で、団員みんなで暖炉を囲みながら交代で練った下地をスープに入れていく作業は、気温とは裏腹に心温まる経験だった。「ペリメリ」とは水餃子にサワークリームをかけたような料理で、その親しみやすさに団員は皆舌鼓を打っていた。

映画『ルッチと宜江』鑑賞 (Film viewing “Ruch and Norie” in Alsunga)

訪問先都市	アルスunga
コメント	「ルッチと宜江」を鑑賞した。ラトビアの伝統に迫る大学院生の宜江に親近感を抱きつつ、ラトビアという国について、映画鑑賞を経てより深い知識を得ることができた。

9月17日

ユース・ハウス (Youth House in Kuldiga)

訪問先都市	クルディーガ
面会者	
コメント	ラトビアの青少年(13~25歳)を対象に、課外活動や出会いの場を提供しているユース・ハウスを視察した。ホールやキッチン、ビリヤード台や寝室がある他、ブレインストーミングルームまで完備されていて、その豊富なオプションが多くの団員を驚かせた。青少年を対象に集いの機会を数多く提供しており、日本食料理会も開催されたということだった。

ヨーロピアン・ボランティア・サービスの青年とクルディーガ散策 (Small excursion to Kuldiga with youth from European Voluntary Service)

訪問先都市	クルディーガ
コメント	のどかで自然の魅力溢れるクルディーガの街をヨーロピアン・ボランティア・サービスの青年と散策した。特にウエンダ滝(ヨーロッパで最も横幅の長い滝)では長く滞在時間を取ってもらい、青年と共に自然の雄大さに触れた。



9月21日

日本大使公邸昼食会 (Lunch reception at the Japanese Ambassador's Residence)

訪問先都市	リガ
面会者	藤井真理子 在ラトビア日本国大使館 特命全権大使
コメント	ラトビア青年とともに日本大使公邸に招待され、日本食をご馳走になった。ラトビア青年は高度に再現された日本食に満足していた。藤井大使が昼食の場に来てくださり、日本青年のラトビアの印象やラトビア青年の日本への意気込みを聞いてくださった。

国立青年機関「ゲッター・ゲームス」(national youth organisation "Ghetto Games")

訪問先都市	リガ
コメント	ゲッター・ゲームスは、青少年が自由に身体を動かす場を提供することで、不況の中でストリートチルドレンを作らず、スラム化を防いで治安を向上させるためにできた。ここでは毎日多くの青少年がスポーツを自由に楽しみ、健全な精神と肉体を鍛えている。私たちはヒップホップとロングボードに挑み、慣れないながらもスポーツを楽しんだ。

9月22日

ラトビア青年とのボランティア活動 (Voluntary work with Latvian participants)

訪問先都市	リガ
コメント	各団員がラトビア青年と共にそれぞれ7種類のボランティア活動に参加した。老人ホームにて書道ワークショップの開催、チャリティーコーヒーショップでのお手伝い、リガ国立美術館でスタッフとして折り紙ワークショップに参加、精神的・身体的に問題を抱える親子たちとの折り紙体験、リサイクルショップでの作業を通して、ラトビアにおける社会貢献活動を理解した。また、リガ市内に住む高齢の女性宅を訪れ日本料理等を通じた交流、ラトビア唯一の小児専門病院での交流、ビーチでのごみ拾いなど様々な活動を通して、ラトビア青年との交流を深めた。

野外博物館 (Open-Air Museum)

訪問先都市	リガ
コメント	森の中に点在する歴史的建造物をラトビア青年と共に巡った。茅葺屋根の住居など、日本のものと類似点が見受けられる一方、屋根の下に棺を保存していたり、乳児が歩く練習をするための玩具があったりと、目新しいものも数多くあり、団員は興味深げに観察していた。プログラム終盤に、自然の中でゆったりと過ごす心地の良い時間となった。

9月23日

ケメリ国立公園 (Kemerī National Park)

訪問先都市	ケメリ
コメント	ケメリ国立公園内の建物を自転車に乗って見て周った後、山道に入り、森の中をサイクリングした。日本とラトビアの根本的な自然の違いを肌で感じた他、ラトビアのキノコや、ヘビの説明を受けた。団員はラトビアの自然を感じつつ、サイクリングを楽しんだ。